

8月 1日 ~ 15日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
07/08/01 (水)	東京は日経平均を始めとするアジア株式が全面安となったことで円キャリートレードの巻き戻し活発。欧米は一転円が全面安。米サブプライムローン問題が弱材料となるものの、米株高などもあり円が堅い。	・7月の米ISM製造業景気指数53.8、6月の米中古住宅販売保留指数5.0%	・安倍首相「赤木農相の辞任、内閣改造のタイミングに影響せず」 ・独連銀総裁「独銀行は不動産関連の損失に耐えられる」	118.53 119.00 117.60 118.95	162.07 162.94 160.47 162.58	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/02 (木)	東京は株安にともなう円高進行も見られたが、結局株高で終了したため、終わってみれば行って来い。欧米はユーロやポンドなど欧州通貨が堅調裡。利上げ据え置きも追加利上げ期待などが下支え。	・BOEが金利据え置きを決定 ・ECBが金利据え置きを決定 ・6月の米製造業受注0.6%	・ソウル米財務副次官補「米政府は通貨法案に反対」 ・ECB総裁「物価安定のため強い警戒が必要」 ・独連銀総裁「独系銀行の危機説は事実無根」	118.85 119.38 118.33 119.21	162.40 163.51 161.57 163.38	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/03 (金)	東京は株価の動向をにらみつつ狭いレンジ内で一進一退。夜半の米産用統計にらみで手控えムード。欧米はドル独歩安。発表された米経済指標がことごとく悪くドル売りに寄与。米利下げ観測も台頭していた。	・7月の米失業率4.6%、同非農業者雇用数9.2万人、同ISM非製造業景気指数55.8 ・S&Pが「アスターズ」の信用格付けを「安定」から「ネガティブ」に引き下げ	・仏中銀「サブプライム問題、欧州の金融機関に及ぼす影響は限定的」	119.17 119.32 117.95 118.06	163.33 163.75 162.50 162.60	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/06 (月)	シドニーでストップ高を巻き込み東京もドル安進行。しかし後半になり円売り優勢となり結局は行って来い。欧米はWSJ紙の報道もあり米住宅市場に対する弱気論が後退。米株が強含みに推移しドル高を支持。	・内閣府試算「07年度実質成長率を2.1%に上方修正、名目は2.1%に下方修正	・大田経財相「デフレ脱却、後ずれしている」 ・WSJ紙「米政府がファニーメイ、フレディマックの住宅ローン貸し出し基準緩和に動く」	117.62 119.10 117.19 118.88	162.53 164.25 162.12 163.97	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/07 (火)	東京は夜半の米FOMCを控え売買手控えムード。118円後半を中心とした揉み合いに終始。欧米は米FOMCに対する失望からドル売り優勢。対円では一時118円を割り込んだ。しかし終盤切り返し。	・第2四半期単位労働コスト速報2.1% ・FOMCが金利の据え置きを決定、声明は「インフレが主要懸念」 ・「アスターズ」が私費で資金調達成功の一部報道あり	・バックス米上院議員「通貨制裁法案は通過する見通し」 ・米財務長官「いずれ人民元の変動制移行が必要」	118.72 118.97 117.97 118.84	163.98 164.09 162.21 163.25	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/08 (水)	豪利上げは予想通りながら豪ドルの買い材料に。機会受注が悪化した円は独歩安商況。欧米は中国による米債売却観測を受けてドル安でスタート。しかしインドネシアの地震もあり徐々にドル買いへ。	・豪州が0.25%の金利引き上げ ・6月の機械受注 10.4% ・BOE四半期インフレ報告「今後2年で英GDPは2.5%程度に上昇」 ・インドネシアでM7.4の地震発生	・英テレグラフ紙「中国が米債売却を検討か」 ・米系証券GSが非常に悪い第2四半期決算を発表するとの噂あり ・米財務長官「中国が米債を売却するとの考えは馬鹿げている」	119.03 119.84 118.75 119.72	163.73 165.40 163.30 165.19	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/09 (木)	東京は小動き。しかし夕方に掛けて報じられたBNPパリバのニュースを受けて円が急騰、独歩高。欧米はパリバが相場の弱材料となるも欧米中銀の流動性確保もあり取り敢えずは落ち着き取り戻す。	・韓国が政策金利を0.25%引き上げ ・ECBが流動性確保のため981.41億ユーロと過去最高の資金供給 ・ECB月報「強い警戒が必要、市場センチメントの変化を注視」 ・NY連銀が120億ドルの資金供給	・BNPパリバが「傘下のヘッジファンドにつき清算価格算出停止」とのリリース実施 ・独連銀「サブプライムローン問題で損失を出した独産業界銀行の救済についての緊急会議召集	119.73 119.77 118.15 118.15	165.25 165.28 161.53 161.61	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/10 (金)	東京はレンジ内で揉み合い。米サブプライムローン問題が依然円高要因として寄与するもドル/円底堅い。欧米は円が堅い。FRBがしっかりとした声明を発表したこともあり市場に安心感台頭。円売り進む。	・ECBが連日の資金供給、この日は610.5億ユーロ ・FRB緊急利下げの噂あり	・FRB「必要となれば流動性供給の用意がある」と01年9月以来同時多発テロ以来初の声明発表	117.94 118.75 117.21 118.42	161.19 162.62 159.98 162.16	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/13 (月)	東京は本邦GDPが予想を大きく下回る内容となったものの、円売りは限定的。盆休みで参加者乏しい。欧米はクロスを中心とした円高でスタート。しかし発表された米経済指標が良好で再び円売り優勢に。	・第2四半期GDP速報値0.1% ・ロブ米大統領次席補佐官が8月末に退任へ ・7月の米小売売上高0.3%、6月の米企業在庫0.4%	・露中銀幹部「通貨バスケット、ドルとユーロの比率を変更する計画当面ない」	118.32 118.57 117.68 118.25	161.98 162.18 160.60 160.97	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/14 (火)	東京はユーロ/円などクロスを中心としたヘッジファンドなど投機筋の円買い先行。ドル/円も円高値圏で終了。欧米は発表された米経済指標が良好な内容となったことで円売り優勢。しかし続かず終盤流れ反転。	・6月の第三次産業活動指数0.1% ・6月の米貿易収支 581億ドル、対日 62.8億ドル、対中 211.6億ドル	・NZ財務相「NZドル下落、信用不安を受けた市場混乱の恩恵」 ・ECB総裁「マネー市場の状況は正常化している」 ・独連銀総裁「独系銀行の損失は限られている」	118.25 118.52 117.56 117.57	160.90 161.03 159.11 159.11	24H 寄付 安値 高値 終値
07/08/15 (水)	東京は当初円売り先行。しかし欧州勢参画後逆に円買い優勢でクロスを中心に円独歩高の様相。欧米は米サブプライムローン問題に対する懸念広がりが円が続伸。発表相次いだ米経済指標はノインパクト。	・8月のBOE議事録「9:0の全員一致で政策金利の据え置き決定」 ・7月の米CPIは0.1%、6月の対米証券投資1209億ドルの資金流入、8月のNY連銀製造業指数25.1、同NAHB住宅市場指数22	・尾身財務相「サブプライムローン問題、大きなヤマは超えた」 ・山本金融相「利上げは日銀が責任を持って判断する」 ・米住宅金融最大手カントリーワイド社に破綻の噂、株価急落へ	117.53 117.65 116.58 116.60	159.03 159.18 156.70 156.75	24H 寄付 安値 高値 終値

\* ご質問などはEメールにてお願い致します。アドレス info@fx-newsletter.com まで